

## 特集：2008年度日本数学会出版賞受賞者のことば

### 杉浦光夫さんの受賞お祝いのことば

このたび杉浦光夫さんが山内恭彦氏（故人）との共著『連続群論入門』によって、2008年度の日本数学会出版賞を受賞なさったことはまことにめでたく、喜ばしいかぎりです。不幸にして杉浦さんは受賞式直前の3月11日にお亡くなりになり、《受賞者のことば》をお書きになることができませんでした。そこで御生前に親しくしていただいた私が、かわりに受賞お祝いのことばを書くことになりました。

1954年ごろから、駒場（東大教養学部数学研究室）で、岩堀長慶さんを中心とするリー群論セミナーが始まりました。杉浦さんや私のほか、伊勢幹夫君（故人）も出ていたと思います。主題は半単純リー群の構造、単純リー群の分類、対称空間の理論など、多岐にわたりました。私はこのセミナーでこそ、現代数学というものの手ほどきを受けたと思っています。

杉浦さんはそのころからリー群の表現論を深く研究し、E. カルタンやH. ワイルの理論を紹介してくれました。

私は途中で留学してしまいましたが、セミナーは続き、『連続群論入門』は、1960年に出版されました。帰国してはじめてこの本を読んだ私は驚いてしまいました。小さな本なのにもものすごく内容が豊かなのです。

第1章で線型代数の要約をしたあと、第2章がもう回転群  $SO(3)$  の表現です。実際には2枚の被覆群である特殊ユニタリ群  $SU(2)$  を扱い、その既約表現を全部つくってしまいます。その途中でシューアのレンマや不変積分（ハール測度）もきちんと扱われています。

第3章は線型リー群とリー環の対応で、ここがいちばん難しい。第4章がローレンツ群、第5章が球関数。ここまで書いてある本は当時まったくなかったし、いまでも非常に少ないと思います。その意味でこの本は奇蹟ということができるでしょう。数学や物理をめざす人みんなに読んでもらいたい本です。

齋藤 正彦

2008年度日本数学会出版賞受賞者の杉浦光夫先生は授賞式の直前にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り致します。そこで、生前の杉浦先生とお親しく、受賞作執筆当時の事情にもお詳しい齋藤正彦先生に「お祝いのことば」を頂きました。執筆をご快諾下さった齋藤先生に感謝致します。

（編集委員会記）